

要旨

【背景】

ドメスティック・バイオレンス(以下、DV)は世界的に深刻な社会問題である。しかし、DV スクリーニングを実施している施設は未だ少ない。普及しない理由に、DV に関する質問が女性に不快感を引き起こすこと等が危惧されている。DV スクリーニングに対する女性の視点からの評価は十分にされていない。

【目的】

女性により低侵襲かつ信頼性および正確度の高い DV スクリーニングツールを開発するために、原版「女性に対する暴力スクリーニング尺度(VAWS)」の項目を再検討し、女性へのインタビューおよび心理統計学手法を用いて改訂版 VAWS を提示することである。

【方法】

本研究のデザインは、質問紙と半構成的面接法を用いた評価研究である。調査期間は 2011 年 10 月～12 月初旬に、病院 1 ヲ所で行った。対象は調査期間に出産予定の妊婦で、妊娠後期の妊婦健診で質問紙を行い、出産後入院中にインタビューと質問紙を行った。妊娠期の質問紙は①5 項目を追加した 12 項目の改訂案 VAWS②背景因子、産褥期の質問紙は改訂版 VAWS の正確度を検討するために既存の尺度である①日本語版 ISA②内閣府男女共同参画局「男女間における暴力に関する調査」項目から構成された。

分析には、統計ソフト SPSS version 19.0 for Windows を使用し、スクリーニング尺度の各項目について基本統計量を算出した。I-T 相関分析より採択した項目の妥当性について、既存の尺度を用いて ROC 曲線を作成し、正確度（感度、特異度）を検討した。信頼性は Cronbach's α を算出した。インタビューでは、女性の視点から侵襲性や認識を検討した。なお、本研究は聖路加看護大学研究倫理審査委員会の承認を受けた（研究倫理審査委員会承認番号：11-039）。

【結果】

研究協力を依頼した 49 名中 43 名(89.5%)から同意が得られ、有効回答率は 100%であった。対象者の年齢は 31.0 ± 4.6 歳であった。12 項目の改訂案 VAWS を I-T 相関分析をし、

改訂版 VAWS は身体的暴力、性的暴力が各 1 項目、精神的暴力が 2 項目の 4 項目が採択された。Cronbach's α は 0.600 であった。女性の評価より、【不快ではなかった】は 97.7% であったが、【答えにくい】は 4.7% であった。DV スクリーニングをすることで【パートナーとの関係を考えるきっかけになった】【DV を新たに認識した】等の肯定的意見が聞かれた。日本語版 ISA や原版 VAWS 等の 4 つの尺度を至適基準として、カットオフポイントを 5 点とすると感度 50.0~87.5%、特異度 82.9~97.1% であり、軽度 DV の 8 名(18.6%)を発見することができた。カットオフポイントを 6 点とすると感度 37.5~100%、特異度 95.1~100% であり、重度 DV の 3 名(7.0%)を発見することができた。改訂版 VAWS のカットオフポイントを 5 点とすると、妊娠前の DV 陽性者は 32.6% であり、妊娠中の DV 陽性者は 18.6% であった。妊娠中の DV 陽性者は妊娠前より DV を受けていた。

【結論】

改訂版 VAWS は 4 項目となった。DV スクリーニングは女性にとって低侵襲であり、パートナーの関係や DV を考えるきっかけになることが明らかとなった。改訂版 VAWS の信頼性や正確度から、さらに洗練する必要はあるが、臨床での使用の可能性は高いと考えられる。